

国語 1次 正答率・講評

問題	正答率 (%)				講評
	受験者		合格者		
	完全	部分	完全	部分	
問一	24.5	75.0	31.7	68.3	吉本ばなな 『おとなになるってどんなこと?』
問二	63.3	35.7	69.5	30.5	<p>友達、勉強、生きるなど人生を生きていく上で大切なことについて、これから大人になる子どもたちや大人になることが難しいと考えている大人に向けて書かれた、8章からなる本の中の第1章の全文。</p> <p>本文は、作者が子どもから大人になったと感じた体験を若い読者に向けて優しく語りかけた文章。子ども時代は、決して楽しく気楽なことばかりではない。その時その時に抱えている問題があって、自分では処理できなくどうしていいのかわからないこともある。それでも、その体験をじっと耐えていくことによって、将来の人生を生きていく指針が形作られていく。作者にとって、大人になったと感じる瞬間は突然に訪れた。その体験を大人になった作者が振り返る。大人であることを難しく感じている人たちが読んでも、これから大人になる人が読んでも、心が暖かくなり自分らしく生きていこうと考えたくなる文章。</p> <p>問一～四 言葉についての基礎的な問題（漢字の書き取り 動詞の活用 状態を表す副詞 語句の意味）。差は開きにくい。落としてはいけない問題。漢字では「冏太い」の誤字「頭太い」「素太い」、「祝福」の取り違い「修復」が目立った。副詞では「どんだん」と「ずとんと」の入れ違いが見られた。</p> <p>問五～八 段落ごとの読解や言葉の抜き出しを中心とした問題。問七の言葉の抜き出しが、受験者平均と合格者平均で差があった。抜き出す言葉が傍線部より後にあることと設問の意図を理解することが難しかったようだ。</p> <p>問九 論述問題 前半の「母の親友の気持ち」は傍線部の直後に描写があるので、出来がよかったが、「私」の様子を表すキーワードである「甘えている」「勝手にある」という言葉がなかなか出なかったようだ。</p> <p>問十三 I 六十字論述 前半部では「エネルギーや空間の広がり」、または「泣き叫んでいる子どもを認めてあげる」がポイント。後半部では「ものごとに対する責任を果たす」または「大人の自由な決断をする」がポイント。問九・十三 I は約7割の受験生が部分点を取っている。自分なりに表現してみることが大切。</p> <p>問十六 本文を踏まえて、受験生に「あなたの場合」大人に近づいたと思えることは何かを問うた。本文に即して考えれば、相手への配慮、思いやりを行動で表すことがポイントになる。したがって、他者との関係性を考えなければ得点にならない。自分自身の成長だけしか記されていない解答も見られたが、残念ながら得点にはならなかった。本文と自分とを結びつけて考えるような読書をしてほしいという、出題者からのメッセージを汲み取った設問。</p>
問三	51.5	47.4	58.5	40.2	
問四	35.7	64.3	42.7	57.3	
問五	88.3		92.7		
問六	84.7		89.0		
問七	45.4		61.0		
問八	83.7		84.1		
問九	14.8	77.6	23.2	74.4	
問十	59.2		70.7		
問十一	35.7		45.1		
問十二	2.0	66.8	3.7	74.4	
問十三 I	0.5	63.8	1.2	69.5	
問十三 II	25.5	1.5	32.9	1.2	
問十四	17.3		18.3		
問十五	81.6		84.1		
問十六	2.0	31.1	3.7	32.9	

国語 2次 正答率・講評

問題	正答率 (%)				講評
	受験者		合格者		
	完全	部分	完全	部分	
問一	34.1	64.2	45.8	54.2	一九六〇年代の神奈川県横浜市多摩区を舞台に、山の上の家で暮らす大浦一家の様子を描いた小説から出題した。文章は平易であるが、分量がやや多いので、場面や状況を整理しながら読解を進める必要がある。
問二	67.6	32.2	77.8	22.2	問一 漢字の書き取り問題 「ジョウレン」(常連)の「連」を「練」と書いてしまったり、「カセイ」(加勢)を文脈につられて「歌声」と書いてしまったりしているものが見られた。
問三	48.7	50.6	58	41.2	問二 空欄補充問題 (選択式) 本文の空欄部分に合致する語を選択肢から選び、適切な慣用表現を完成させる。 問三 空欄補充問題 (選択式) 文脈から判断して空欄に挿入するのに適切な接続語や副詞を判断する問題。
問四	70.5	0.0	76.4	0.0	問四 語句問題 (選択式) 四字熟語の知識を問う。基礎的な内容であり、確実に得点したい。 問五 理由説明問題 (選択式) 傍線部(「みんなが安心したような心持になる」)前後の情報を整理して、その理由の説明として適切なものを選ぶ。
問五	77.7	0.0	84.3	0.0	問六 内容説明問題 (選択式) 「コヨーテ腹べこ物語」が、コヨーテたちをどのような存在として描いているかを問う。傍線部以降に描かれているコヨーテ一家の様子とそれを観た大浦の反応かを踏まえて説明として適切なものを選ぶ。受験者全体と合格者との間で正答率に開きが見られた問題であった。
問六	55.0	0.0	63.9	0.0	問七 内容説明問題 (選択式) 「コヨーテ腹べこ物語」を観た大浦の気持ちの移り変わりを正確に捉え、心情の推移の説明として適切なものを選ぶ。
問七	72.6	0.0	78.7	0.0	問八 心情説明問題 (選択式) 傍線部(「これなら安心だ」)から、息子がコヨーテの歌を歌うことについて、大浦が以前はどのように考えていたかを類推する。
問八	78.5	0.0	85.2	0.0	問九 I 抜き出し問題 II 記述問題 Iは「本当のコヨーテの鳴き声」がどのようなものと語られているかを本文から探し抜き出す。「コヨーテ腹べこ物語」における理想化されたコヨーテの鳴き声(「『ビュービュービュー ビヤオー、ビュービュービュー ビエイ』と元気のいい声」と対照的に語られる「実際には、それは陰気でないやな鳴き声であるに違いない」という箇所に着目する。受験者全体と合格者との間で正答率がやや開いた問題であった。また「陰気」の「陰」の漢字のミスが複数見られた。
問九(I)	37.1	1.5	46.8	2.3	IIはあえて「眼をつぶって、悲しげに声を震わせて」Iの鳴き声で鳴いてみせた安雄の心情を、本文(「夜、勉強部屋でこの声が聞えたら、それは『仕方がない。これから宿題をやる』という意味なのであった」)から読み取って記述する。
問九(II)	11.9	43.3	16.7	48.6	問十 理由説明問題 (選択式) 大浦の人生観に関する記述を踏まえて、傍線部(「ただ、その工事がいつ始まるか、それだけがはっきりしなかった」)の理由として適切なものを選ぶ。
問十	77.0	0.0	81.5	0.0	問十一 空欄補充問題 (選択式) 傍線部前後をまとめ直した文章の空欄を埋めるのに適切な語を選択する問題。情報整理を丁寧かつ確実に行うことがポイントである。
問十一	22.3	75.3	28.2	70.4	問十二 記述問題 傍線部「(いつも家の中で聞える子供たちの声や細君の声も、もしそんな風に考えるなら、同じように彼の耳に聞えた)」の内容を説明する問題。「もしそんな風に考えるなら」という条件節が指す部分を正確に捉え、一般化して説明し直す力を確認した。「結局すべては幻なのだ」という過度に単純化した解釈をした答案が目立った。
問十二	0.0	7.3	0.0	11.1	問十三 理由説明問題 (選択式) 傍線部(「もうその音は前ほど耳ざわりでなくなった」)理由を、大浦の心情を根拠に推察する。大浦の人生観についての記述を正確に理解できているかどうかポイントである。
問十三	60.8	0.0	69.0	0.0	問十四 記述問題 「大浦」「安雄や正次郎」「広い西部の野から締め出されて昔を思い出しているコヨーテ」に共通する気持ちを説明する問題。本文からそれぞれの作中人物の心情にかかわる記述を見つけ出し、共通点を抽出して簡潔に説明する能力を確認する問題であった。単純に「悲んでいる」とした解答が多く見られた。
問十四	0.7	77.7	0.9	85.2	問十五 記述問題 小説の表現の特徴を説明したのとして適切なものを選択する。引用されている箇所とそれに対する説明の妥当性を慎重に検討する必要がある。
問十五	29.1	55.9	34.3	55.6	問十六 記述問題 『タベの雲』についてのAさんとBさんの対話を読み、その内容に賛成か反対かで記述する内容が変わる。賛成であれば、二人の対話の内容を要約して説明する。複数あるポイントを正確に捉えられているかどうかで大きく点数に差がついた。
問十六	16.5	56.7	24.1	62.5	反対ならば、この小説が『タベの雲』と題されている理由について、自分の考えを説明する。《なぜそう考えたのか》説明できているかどうかで大きく点数に差がついた。

国語 3次 正答率・講評

問題	正答率 (%)				講評
	受験者		合格者		
	完全	部分	完全	部分	
問一	7.8	92.2	11.4	88.6	<p>本文は、アイリック・ニュート著／猪苗代英徳訳『世界のたね～真理を追いもどめる科学の物語～』による。</p> <p>問一・二は漢字・語句に関する基本問題。確実に正解することが合格につながる。部首等の部分的な間違いも多かった。</p> <p>問三～十五は内容把握・理由説明等、問い方に違いはあるものの、すべて本文を正確に読むことができているかを問うものであったが、中でも問五の正答率が低かったのは、具体例を一度抽象化させて別の具体例の正誤を見分けるのが困難だったのだと思われる。</p> <p>問十の正答率があまり高くなかったが、文章中に突然出てきた固有名詞による表現を具体的に理解するのに時間がかかったことが原因だと思われる。</p> <p>問十一では文章中の抽象表現を用いて対比的に解答するべきところを一方ができていても一方が不十分であるものが多かった。</p> <p>問十三は前段の内容を受けて抽象化する問題であったがそれができずに失点している解答が多かった。</p> <p>問十六では問題文にある自分自身の体験をふまえていない解答や体験の例が適切でない解答も見られた。</p> <p>総合的に見ると、問十四～十六が大きく合否を分けたようである。</p>
問二	82.6	16.9	90.9	9.1	
問三	82.2		93.2		
問四	74.4		79.5		
問五	48.6		50.0		
問六	89.5		97.7		
問七	98.6		100.0		
問八	86.8	10.0	86.4	11.4	
問九	89.5		97.7		
問十	14.6	13.7	15.9	25.0	
問十一	16.4	75.3	27.3	72.7	
問十二	79.9		88.6		
問十三	0.5	93.6	0.0	95.5	
問十四	63.0		81.8		
問十五	55.3		72.7		
問十六	5.0	45.7	11.4	54.5	